

《履修上の留意事項》施設見学や実習、卒業後の臨床・実務場面を想定した実践的学習項目と学習方法を提供する。学生は受動的に「講義を聴く」「聞いてわかる・知る」ことを目的とすることなく、毎回行われる疑似的体験課題や教員との対話などの実践的トレーニング学習に積極的に参加し、行動し発言することが期待されている。対面講義においては、PC必携のこと。

《担当者名》長谷川聡

【概要】

実習およびその関連科目学習に際して必要な、患者・障害者・家族・住民・多職種・同僚とのコミュニケーション・スキルに関する知識と技術について、講義と実践的課題学習を通して基礎から学ぶ科目である。

【学修目標】

- 1) 医療専門職に必要なコミュニケーション・スキルと人間関係について理解するために、ロールプレイや課題解決による対人コミュニケーション訓練を体験する。
- 2) 「コミュニケーションへの配慮」、「傾聴的態度」、「ことばの介助」を説明して実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	シラバスと学修方法を説明できる。 学生の個別学習ニーズを検討する。	長谷川聡
2	オンライン・コミュニケーション 1	ビデオ通話の要素と特性について検討する。	長谷川聡
3	オンライン・コミュニケーション 2	画像コンテンツの意味と表現について等する。	長谷川聡
4	オンライン・コミュニケーション 3	音声コンテンツの意味と表現について検討する。	長谷川聡
5	ヘルス・コミュニケーション1	患者=医療者関係のコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川聡
6	ヘルス・コミュニケーション2	相互理解を促進するコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川聡
7	ヘルス・コミュニケーション3	行動変容を促進するコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川聡
8	ヘルス・コミュニケーション4	情報提供のためのコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川聡
9	ヘルス・コミュニケーション5	リスク・コミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川聡
10	ケアリング・コミュニケーション 1	コミュニケーションの原理と基本事項について検討する。	長谷川聡
11	ケアリング・コミュニケーション 2	ケアリングとケアリング・コミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川聡
12	ケアリング・コミュニケーション 3	「声かけ」技能を体験して、その機能・方法・価値について検討する。	長谷川聡
13	ケアリング・コミュニケーション 4	「一往復半」技能を体験して、その機能・方法・価値について検討する。	長谷川聡
14	ケアリング・コミュニケーション 5	「非言語コミュニケーション」技能を体験して、その機能・方法・価値について検討する。	長谷川聡
15	ケアリング・コミュニケーション 6	「傾聴、受容と共感」技能を体験して、その機能・方法・価値について検討する。 本講を振り返り総括する。	長谷川聡

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

リアクション・シート20%、単元課題20%、期末課題60%。

【教科書】

「保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門」石川ひろの著 大修館書店

【備考】

Google ClassroomとGoogle Driveを用いた遠隔授業教材・課題を用意している。Classroomのストリームを講義進行に合わせて逐次公開するので、積極的に活用してオンライン自習することが期待されている。

【学修の準備】

初回講義開始前に教科書を音読通読して、読めない漢字を調べてルビを振る、ノートを作るなどして読めるようにしておくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

【実務経験】

行政職員(福祉技術職)

【実務経験を活かした教育内容】

相談機関・医療機関での実務経験を活かし、傷病者・障害者とその家族の相談やケアの方法、あるいは関連機関・関連職種・地域住民とのコミュニケーション・スキルを身につける。